

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

4月25日11時頃から硫黄山南西観測点の傾斜計¹⁾で、硫黄山方向が隆起する傾斜変動が繰り返しみられており、現在も隆起が継続しています。

東京大学地震研究所が5月8日に実施した現地調査により、硫黄山火口内で噴出物が確認されました。

監視カメラや現地調査では、長期的に熱異常域の拡大や噴気の量の増加が認められます。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動が高まってきており、今後、小規模な噴火が発生するおそれがあります。噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲（図2）では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、3）

東京大学地震研究所が8日に実施した現地調査により、硫黄山火口内で灰白色の噴出物が確認されました。噴出物は硫黄山火口内の南西側に分布していました。なお、本日（9日）に気象庁が現地調査を実施しましたが、天候不良のため噴出物の状況は確認できませんでした。

・地殻変動の状況（図4、5）

4月25日11時頃から硫黄山南西観測点の傾斜計で、硫黄山方向が隆起する傾斜変動が繰り返しみられており、現在も隆起が継続しています。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器です。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 μ radian（マイクロラジアン）は1km先が1mm上下するような変化です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

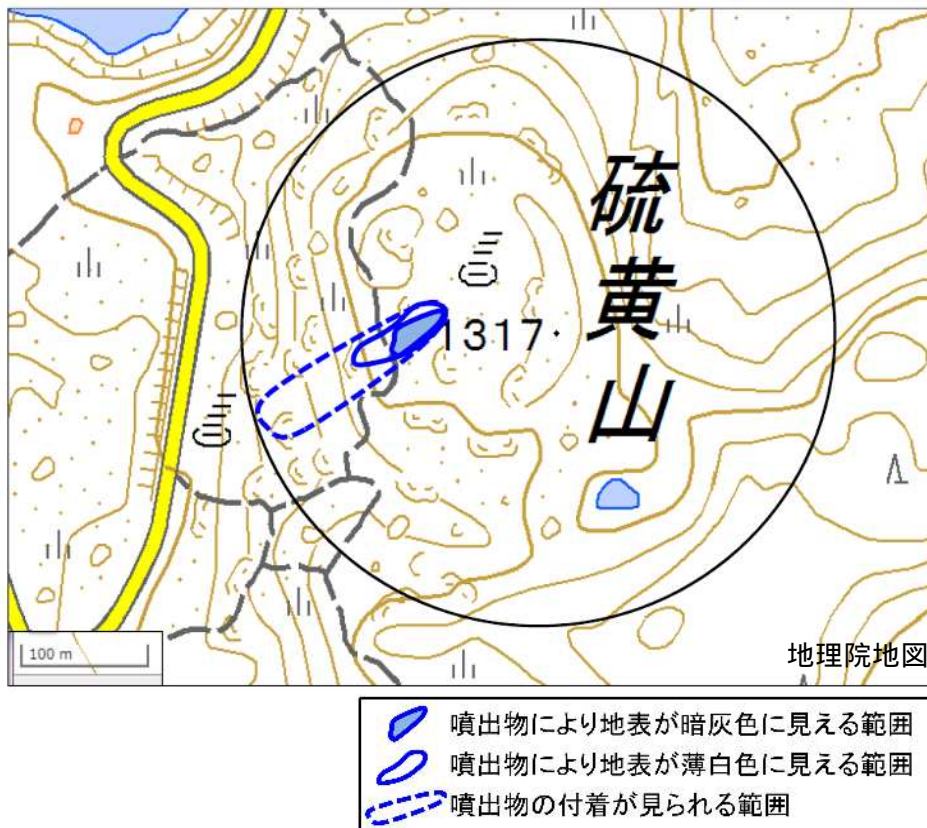


図 1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴出物の分布図

東京大学地震研究所が 8 日に実施した現地調査により、硫黄山火口内で灰白色の噴出物が確認されました。噴出物は硫黄山火口内の南西側に分布していました。

図は東京大学地震研究所への聞き取りを元に作成しました。
図中の円（半径 250m）は硫黄山火口を示します。

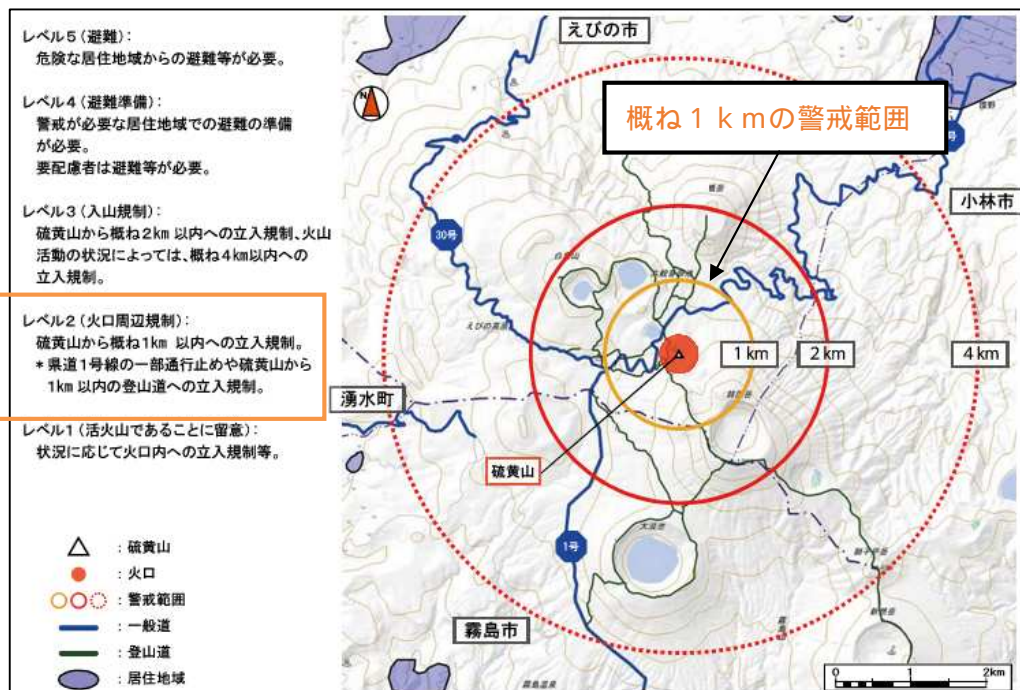


図 2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 警戒が必要な範囲



図 3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山火口内で採取した噴出物

シャーレの格子間隔は 1 mm

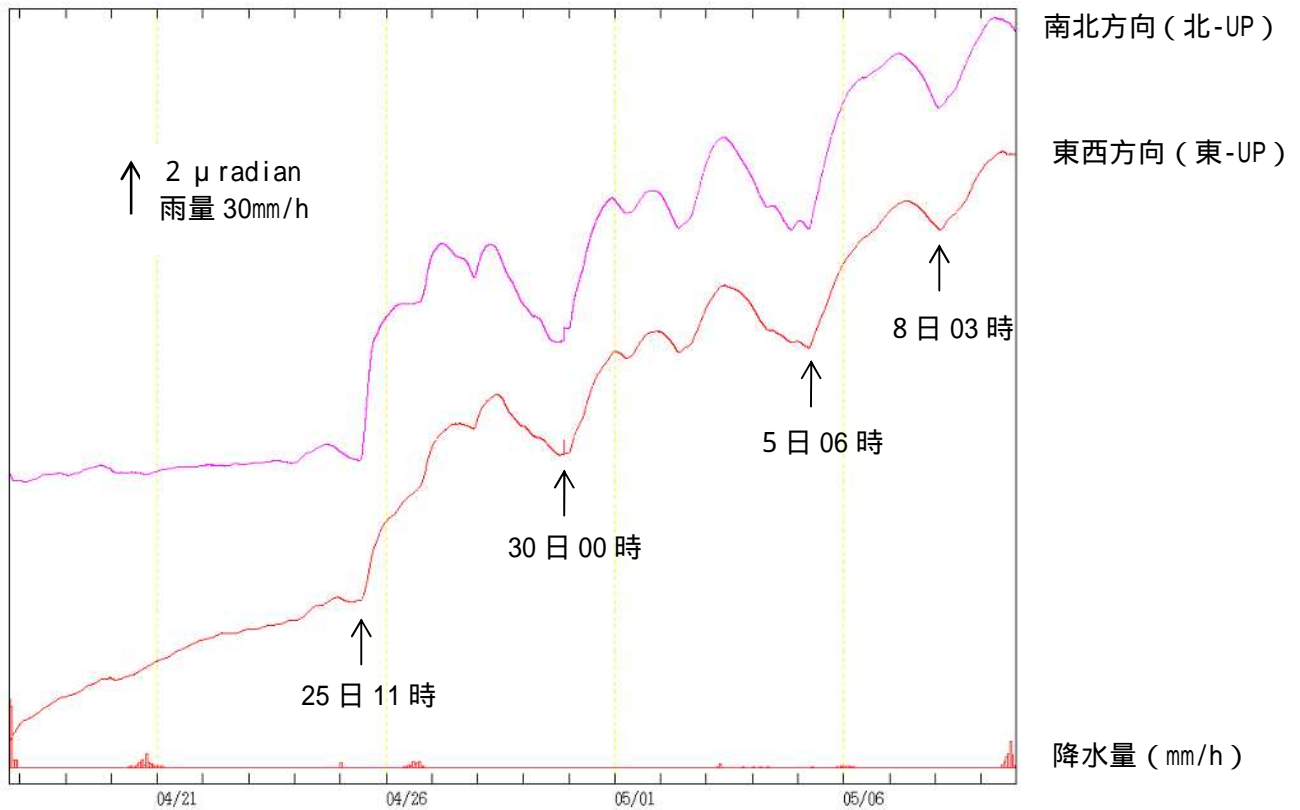


図 4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）
硫黄山南西傾斜計の傾斜変動（分値）及びえびの高原の降水量 mm/h（4 月 17 日～5 月 9 日 17 時）
4 月 25 日 11 時頃から硫黄山南西観測点の傾斜計で、硫黄山方向が隆起する傾斜変動が繰り返してみられており、現在も隆起が継続しています。

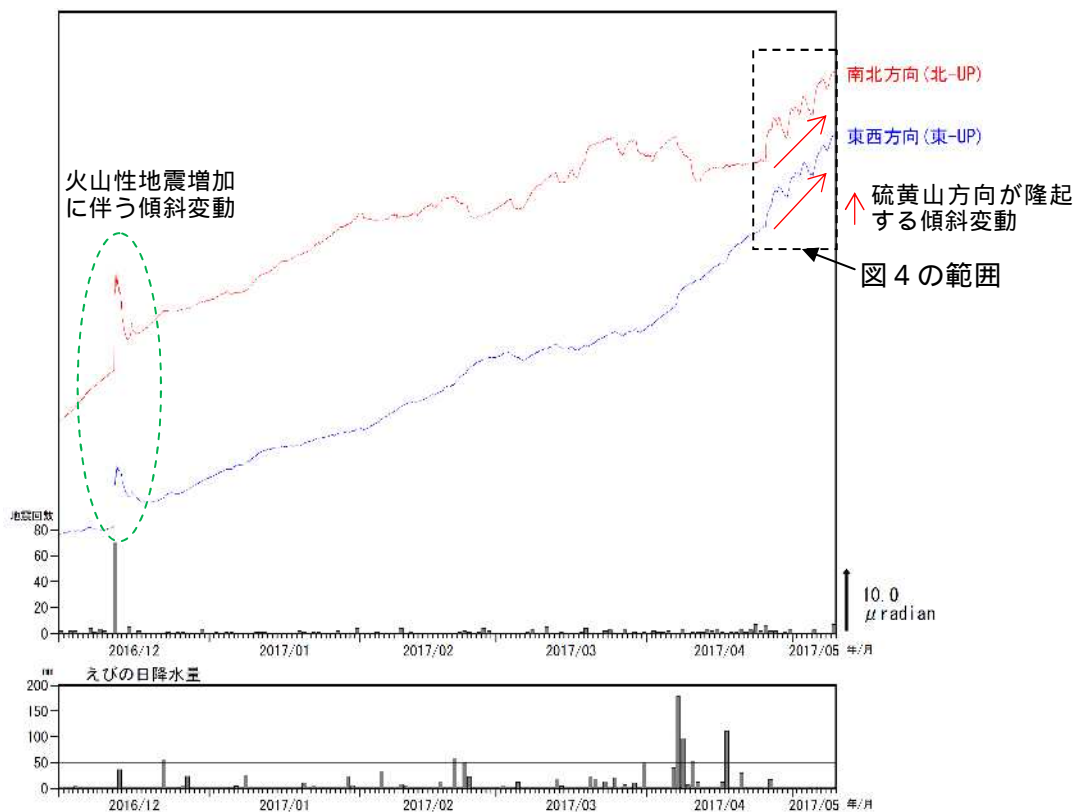


図 5 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）
硫黄山南西傾斜計の傾斜変動（時間値）と火山性地震の日別回数
（2016 年 12 月 1 日～2017 年 5 月 9 日 17 時）

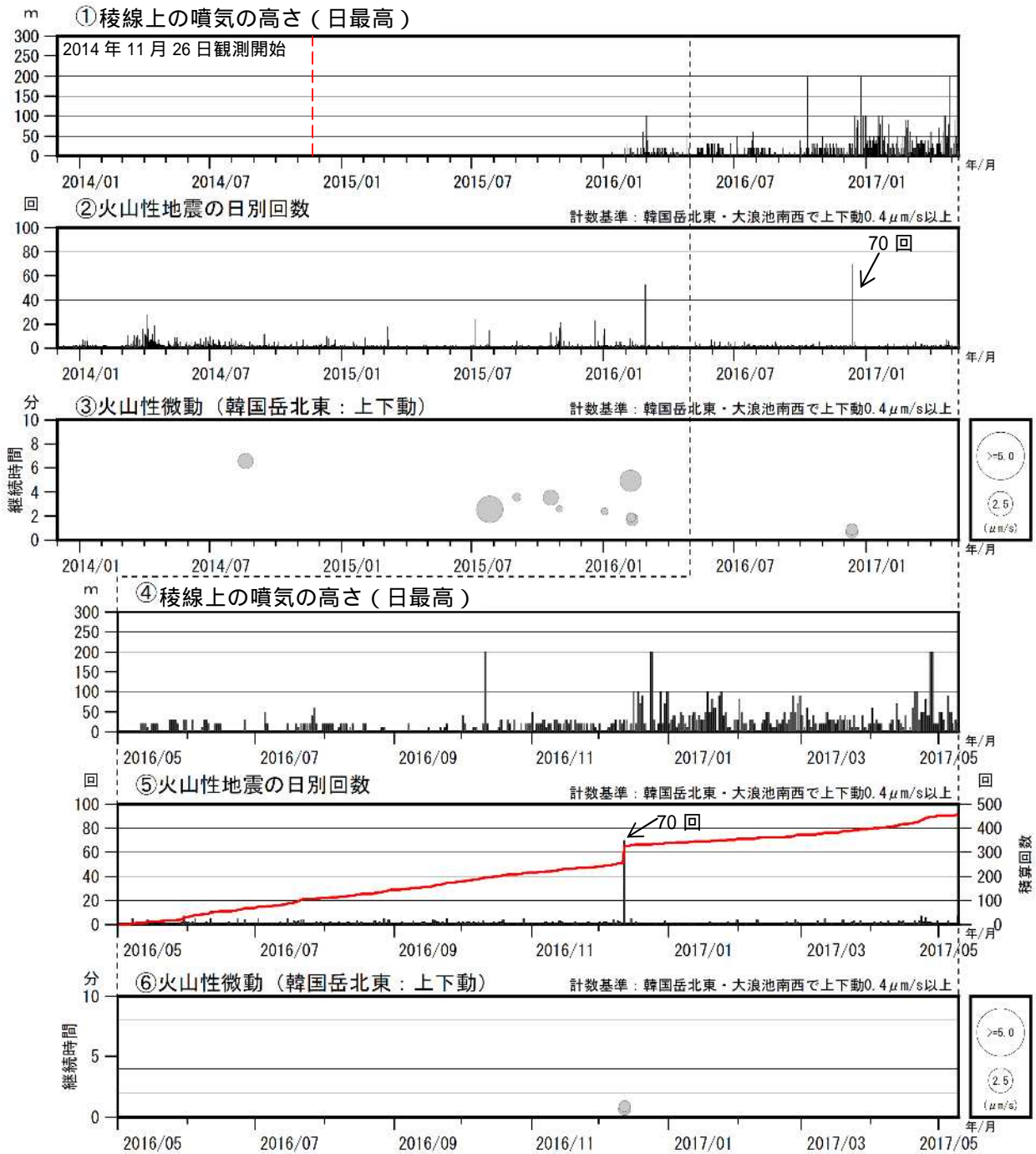


図 6 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 火山活動経過図（2013 年 12 月～2017 年 5 月 9 日）

の赤線は地震の回数の積算を示しています。

2016 年 2 月 10 日 14 時 43 分頃に発生した火山性微動は、韓国岳北東観測点が欠測中だったため のグラフには掲載していません。

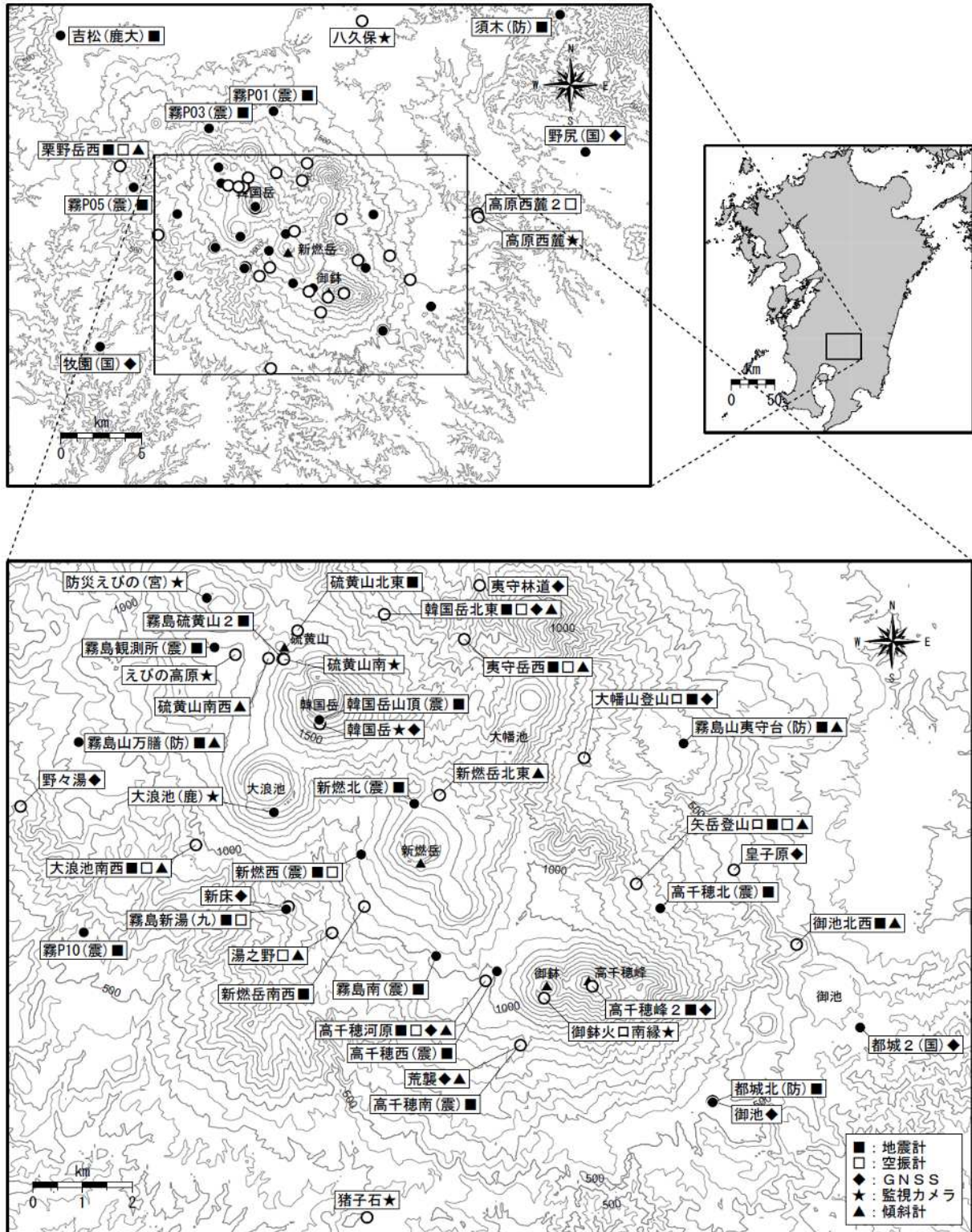


図7 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県